

みどりの杜俳句会

音もなく紅葉を散らす山の風

佐山けさ子

冬うらら三人寄りて空仰ぐ

高橋 きみ

植木場のばら枝先にみどりの実

鈴木 啓子

山畑の柚子一枝の垂れ下がる

田村 好子

蕾つく山茶花くぐり母屋まで

馬場 芳

玉葱苗畝に並びて未だ細し

梅沢きくえ

裏山のいちやう黄葉や日の当る

安田 久子

山茶花の風に散りゆき白ピンク

山崎 才子

散り残る紅葉や日当る幹白し

飯野はつ志

友よりの小物入れ置き冬日射す

西 つる

鬼柚子や無様な形おもしろし

今村千鶴子

紅葉降る母の求めし庭石に

吉田 愛子

枝撓ひみかん豊作黄の濃ゆし

高橋 ツ子

生垣の白山茶花のまぶしかり

野口利江子

山の家小振り大根吊しあり

関口 侑子

冬紅葉下枝を張る強さあり

谷内 真里

秩父路の遠山並や冬紅葉

小林 和幸

笠山の岩場つたひて紅葉狩り

金子 圭輔

七五三蝶タイしめて野辺の道

大竹 祐也

縁に座し山茶花一樹の盛りかな

片岡 喜久

早朝の庭一面や霜柱

千野さき子

玄関を入れるや蜜柑の香りあり

岡部富美子

厄除けの祈願団子や柚子香る

土屋 厚子

散紅葉掃き寄せてあり仁王門

初雁 功子

矛杉の先まで絡み葛黄葉

山田 美子

白石短歌会

初春によろずの神に祈ること

すべての人をお護り給え

長く生きてはやぶさ兄弟の威業知る

新型コロナに負けてたまるか

錦秋の紅葉映える峡の里

留めおきたしいつくまでも

コロナ禍に休業の店守り居る

客待ち顔に咲く薔薇五輪

渡邊阿里子

白石 礼子

坂本 美江

渡邊阿里子



人権シリーズ

『多様化する社会で生きる』

想像してください。もし人間の背中に羽があり、自由に飛び回ることができたら。世の中の大多数の人たちの移動手段が歩くことではなく、飛ぶことだったら。私には羽がなく歩くことでしか移動できないので、「障がい者」ということになります。いわゆる「少数派（マイノリティ）ゆえの困難」と言えます。これは、私が数年前に受けた、城西大学経済学部准教授、浅原知恵先生の「多様性」の理解と受容という研修の冒頭に聞いたお話です。大げさな話かもしれませんが、こうしたことを想像し、少数派が抱える困難や負担に思いを巡らせておくことは、その生きにくさの理解に役立つことでしょう。

生きにくさについて考えるとき思い出すことがあります。大学時代、同じクラスメイトの盲目の女の子です。その子はノートをとるのも、試験を受けるのも、点字でした。音楽大学でしたので、聴音の授業で音符を聴き取るのも点字でした。人一倍の努力をしていたのでしょう。成績優秀者で学年の模範として皆の前で歌唱披露することもありました。きっと多くの困難があったに違いないと思いますが、振り返ってみると、彼女は目が見えない、という困難さを微塵も感じさせませんでした。それは全てにおいて特別扱いがなかったからなのだと思います。

今後、より多様化する社会の中で、障がい者だから、女性だから、と特別扱いすることのない世の中を目指し、「みんなながってみんないい」の考えを持ち、多様性を受け入れられる人を育てていくことが、私の使命だと考えます。

東秩父村立槻川小学校 芝崎 弘美